

道徳学習指導案

対象 第1学年

1 主題名 前向きな心 1-(2)

2 資料名 「ベストスマイル」(「あすを生きる1」日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

事物に対する積極的な取り組みは、本人の意志によって貫かれるものである。行為を起こすとき、希望をもつことができこそ目的意識をもって意欲的に取り組む。目標達成ができたとき、どんなに嬉しく、どんなに感動することであろうか。そうした経験は自信となり、勇気を生み出し、自分の可能性を伸ばし、人生を切り拓いていく原動力となる。将来へのより高い希望、そして多少の障害にもくじけまいとする勇気を抱くことで自分自身を鍛え、励まし、初期の目標達成に向かって粘り強い意志を育てることができる。このことを積み重ねることで、人間としてよりよく生きることへと結びついていく。

(2) 生徒の実態について

自分の将来の夢だけでなく、学習面や、部活動などに対しても目標を立て、その実現に向かって希望と勇気をもって取り組むことができるが、障害や困難に直面すると言いついで逃れたり、責任転換をして回避してしまうことも多く見られる。本時を通して、自分の立てた目標が十分に到達できなくても、結果ではなく過程が大切であることや、最終的に得た成果に誇りをもてるような心を育てていきたい。

(3) 資料について

「補欠選手」となった主人公が、人間としての弱さを克服して、走ることを貫き通そうとする心や行動を描いている。この資料を通して、目標への到達を目指すにあたって、いくつもの妨げに屈しないで最後までやり抜く強い心や、みんなが支えてくれる人間の温かさを考えさせるために適切な資料である。

4 本時の学習

(1) ねらい

自分の目標を達成するため、主役である自分が希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志を育てる。

(2) 指導過程

	学習活動と○主な発問	・予想される生徒の反応	●教師の働きかけ ○指導上の留意点
導入	1. 「補欠」という言葉から考えられるイメージを出し合ってみよう。 ① 「“補欠”という言葉から考えられるイメージは何か。」 ② 「補欠にはどんな役割があるか。」	・ 試合や舞台に出られない。 ・ 主役ではない脇役。 ・ レギュラーの控え。 ・ ピンチの時に頼れる存在。 ・ アクシデントがあったら必要。	● 挙手、指名により発表させる。(T1) ○ 一般的なマイナスイメージだけでなく、「いざという時に大切な存在である」というような意見が出るとよい。 [補助発問]「もし補欠という存在がいなかったらどうなるだろうか考えてみよう。」

<p>展開</p>	<p>2. 資料「ベストスマイル」を読み、次のことについて考え、語り合う。</p> <p>発問①「補欠に決定したときや決定してから本番に向けて準備するときの筆者の気持ちを考えてみよう。」</p> <p>発問②（中心発問）「筆者が、補欠に選ばれてから参加した各種イベントを通して、つくづく実感させられたことを考えてみよう。」</p> <div data-bbox="236 1077 600 1319" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><小集団による語り合いと書く活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ワークシートに自分の考えを記入する。 2. 小集団による語り合い。 3. 数人が自分の班の語り合いの内容と様子を発表する。 </div> <p>発問③「感動好きの筆者が、座右の銘を「ベストスマイル」としている理由を考えてみよう。」</p> <div data-bbox="244 1570 608 1792" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><学級による語り合いと書く活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ワークシートに自分の考えを記入する。 2. 数人が自分の考えを発表し、学級全体で語り合う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・選手として力不足だった。 ・ベテランだから経験を買われて選ばれたのだろう。 ・走れる可能性がないのに準備がうまくいくのか不安。 ・多くの人に支えられてマラソンをしている。 ・陸上生活の出発点は補欠からであった。 ・尊敬している市民ランナーの存在が走るモチベーションを上げてくれた。 ・もう一度走りの原点に立ち返ろうと思った。 ・補欠でも胸を張っていい。 ・自分のためだけではない喜びを実感したいから。 ・苦しさや厳しさを越えた喜びを味わうため ・みんなで一番の笑顔で喜び合いたいから。 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料名を黒板に貼る(T2) ●資料を朗読する。(T2) ●発問カードを黒板に貼る(T2) ●挙手、指名により発表させる。(T1) ●生徒の意見を板書する(T2) ○本番に走ることにない補欠に選ばれた筆者が、人間としての弱さをもっていることに気付くとともに、自信をなくしていることを理解させる。 [補助発問]「目標だったオリンピックに正選手ではなく補欠に選ばれた時に筆者の気持ちは。」 ●発問カードを黒板に貼る(T2) ●小集団の語り合いに加わり、語り合いの内容を深める。(T1・T2) ○改めて走る喜びを感じている筆者の立場や状況を理解させる。 [補助発問]「もしオリンピック本番で正選手が怪我をしたら補欠の役割はどうなるか。」 [補助発問]「市民ランナーとイベントに参加することで筆者の気持ちはどう変わっていったか。」 ●挙手、指名により発表させ、さらに「どう思うか」と周りに聞いて語り合う。(T1) ●場面絵を貼る。(T2) ●生徒の意見を板書する。(T2) ○自分とスタッフたち、そして応援者みんなで最高の喜びを分かち合うとともに、胸を張って生きることのすばらしさを大切にしている筆者を理解させる。(弱い自分を乗り越えることができる人間の強さ)
<p>終末</p>	<p>3. 「補欠」についての授業者の経験談を語る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●自分の経験談を語る。(T1)(T2) ○今の自分の生き方をもう一步前向きに進めてみようとする意欲を育てる。

<p>4 今日の授業で感じたこと考えたことを参考に、自分の「座右の銘」や「好きな言葉」を理由を添えて書き、発表する。</p>	<p>○自分の言葉で、今の自分の考え方や生きる指針を表現させたい。</p>
--	---------------------------------------

(3) 評価の観点

- ・広い視野に立って、ものごとを正しく判断し、自分の目標を実現するための希望と勇気を持つとともに、困難に屈しないでねばり強く最後まで着実にやり抜こうという強い意志を抱いていたか。
- ・生活の中で具体的な次なる目標を新たに立てることができたか。

5 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>千葉真子さんの走っている姿の拡大写真</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦しさや厳しさを越えた喜びを味わうため。 ・ みんなで一番の笑顔で喜び合いたいから。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>筆者の座右の銘「ベストスマイル」の理由</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のためだけではない喜びを実感したい。 ・ 苦しさや厳しさを越えた喜びを味わうため。 ・ みんなで一番の笑顔で喜び合いたいから。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>筆者がつくづく実感したことは。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの人に支えられてマラソンをしている。 ・ 陸上生活の出発点は補欠からであった。 ・ もう一度走りの原点に立ち返ろうと思った。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>補欠に決まったときや準備の時の筆者の気持ち</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選手として力不足だった。 ・ ベテランだから経験を買われて選ばれた。 ・ 走れる可能性がないのに準備がうまくいくのか不安。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>補欠のイメージ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試合や舞台に出られない。 ・ レギュラーの控え。 ・ ピンチの時に頼れる存在。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>ベストスマイル 千葉真子</p> </div>
---	---	--	---	--	--	---